

【3月の気象】

3月は、「啓蟄」「東風」など、春の訪れを思わせる季語が多くありますが、「春炬燵」など、冬の寒さを思わせる季語もあります。この時期は、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過して天気が周期的に変化することが多くなります。高気圧に覆われて晴れる日や低気圧の通過で雨をもたらす日、冬型の気圧配置となり冬を思わせる寒さとなる日もあります。3月に松山で最低気温が一番低かった記録は1893年の氷点下6.3℃です。さすがに温暖化もあり近年ではこれほどの低温はありませんが、2000年代に入っても、氷点下の気温を観測していることがあります。このため、晩霜による農作物への被害が懸念される時期でもあります。例年この時期に入る前には、気象台と農業関係機関の間では農作物の育成情報を考慮して、霜注意報の発表時期を決めています。気象台の発表する霜注意報には留意願います。

また、この時期に農業に影響する気象や天候などは、表1の通りとなります。参考にしてください。

表1 農業に影響するこの時期の気象と天候

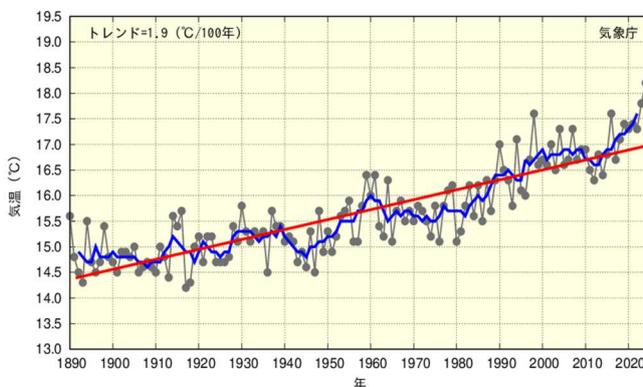
現象の種類	状況や要因	注意すべき事項	着目してほしい情報
晩霜	高気圧に覆われた朝の放射冷却	農作物の管理	霜注意報
乾燥	高気圧に覆われて空気が乾燥	火の取り扱い	乾燥注意報
強風	低気圧の発達などにより 気圧の傾きが増大	農業施設の管理 火の取り扱い	気象情報 強風注意報、暴風警報
落雷 竜巻・突風 降ひょう	寒冷前線近傍、上空寒気により大気の状態が不安定	農作物の管理 安全な場所へ避難	気象情報、雷注意報 レーダー・ナウキャスト 竜巻注意情報

【気象用語】「松山の2024年の高温」について

2024年も暑い年となりました。日本の年平均気温は過去最高の高い気温となり、松山でも1890年の統計開始以来、2023年の記録(17.8℃)を抜き、2024年の年平均気温は18.2℃と過去最高の高い気温となりました(第1図)。年間を通して月平均気温が平年を上まわり、特に、8月から10月の3か月連続で過去1位の高い月平均気温となりました(第2図)。猛暑日(最高気温35℃以上)の年間日数は33日、熱帯夜(最低気温25℃以上)の年間日数は58日と、こちらも過去1位の記録となりました。

この高温となった要因として、地球温暖化で気温が上昇している中、エルニーニョ現象の影響で、日本付近の中緯度帯の昇温、夏から秋にかけて、例年より偏西風が北に偏り、日本付近が暖かい空気に覆われたことが考えられます。このため、松山のみならず、県内の多くの地点で過去最高の年平均気温を観測しました。

今後しばらくは、地球温暖化による高温傾向は変わらないと考えられます。地球温暖化以外の様々な要因が重なれば、2024年を超える高温の年が現れるかもしれません。



第1図 松山の年平均気温 (1890年～2024年)

黒線：各年の気温 青線：5年移動平均

赤線：変化傾向



第2図 松山の月別平均気温 (2024年)